

## 草津市健幸都市基本計画（案）に関する タウンミーティング等での意見について

NO.	意見の要旨	市の考え方
1	<p>総体的に新しさや、草津市らしさを感じにくいのではないかと。</p>	<p>草津市らしい取組としては、4月から共用開始予定の草津川跡地公園の健康拠点としての活用や、健康データも活用した地域の状況に応じた健康づくり、包括協定の枠組みを活用した大学との健康分野での連携強化、企業や団体等による健幸都市宣言への賛同等を契機としたネットワークの構築等を検討しています。</p> <p>今後、市の総合政策として、PDCAサイクルに沿って取組を推進していきます。</p>
2	<p>健康寿命について、9ページと25ページの現状値が異なるのはなぜか。</p>	<p>データの対象年が異なります。9ページは国・県と比較するために22年、25ページは最新値を記載しています。</p> <p>9ページの表の資料名から「(平成26年度)」を削除します。</p>
3	<p>医療費について、草津はワースト1という表現があるが、医療費が高いのは悪いことなのか。市民の健康が管理されている結果ではないのか。財政上ではワーストだが、他市と比べて高いという表現が適切ではないか。</p>	<p>13ページの「ワースト1」を「県内で1番高く」に、「ワースト2」を「2番目」に修正します。</p>
4	<p>「ひとの健幸づくり」「しごとの健幸づくり」の目標と課題が合っていないのではないかと。事業の成果や課題の解決につながるような指標にすべきではないか。</p>	<p>「ひとの健幸づくり」については、各課題に対応した指標の進捗状況は健康くさつ21で確認することとし、本計画では健康づくりの全体を捉えられる指標を設定しております。</p> <p>「しごとの健幸づくり」については、今後、具体的に事業を検討していく中でよりよい指標の設定が可能であれば併せて採用することも検討してまいります。</p>

NO.	意見の要旨	市の考え方
5	「第2章 現状と課題」については、課題をもっと掘り下げて記載すべきではないのか。	第2章では、健幸都市づくりに取り組むにあたっての現状と課題を記載しています。第4章にも、それぞれの取組に係る現状と課題を記載しており、現状把握の段階から何が課題かを含め検討し記載しています。
6	「歩いて暮らせるまちづくり」より「自動車に頼らないまちづくり」のほうがイメージしやすいのではないのか。公共交通機関も使わないように思われるのではないのか。	健幸都市基本計画は、様々な関係した取組を健幸の側面から捉え、健幸都市実現のための取組を連携・強化していくものですが、「歩いて暮らせるまちづくり」については、自動車の過度な利用を減らし、健康づくりにつながる公共交通や徒歩等による移動を増やすことにより、健幸都市づくりを進める取組としてこのような表現としています。
7	路上喫煙対策はマナーの問題で、健康とは趣旨が違うのではないのか。	誰もが安全に、安心して出かけられる環境を整備するという観点から、受動喫煙の防止について記載しており、これは健康づくりにも資するものであると考えています。
8	交流機会に、長寿の郷ロクハ荘やなごみの郷の事業も掲載すべきではないか。	まちの健幸づくり基本施策2(1)「交流機会の充実」の「現状」に追記いたします。
9	歩くことが困難な人もいるので、ウォーキングだけでなく、負担が少ない水中ウォーキングや水泳等も記載すべきではないか。	ポールを使用することで足腰への負担が軽減されるノルディックウォーク等の推進を盛り込んでいますが、今後、PDCAサイクルに沿って進めていく中で、水中での運動も必要に応じ検討いたします。
10	地域包括ケアシステムに、交通の視点を入れてほしい。	健幸都市基本計画は、様々な関係した取組を健幸の側面から捉え、健幸都市実現のための取組を連携・強化するものですが、計画には公共交通の充実や地域包括ケアシステムの推進も盛り込んでおり、今後ご意見の趣旨も踏まえつつ、地域包括ケアシステムの推進に向け取り組んでまいります。

NO.	意見の要旨	市の考え方
11	<p>新聞に30・40歳代の女性の運動習慣が全世代で一番低いという記事が載った。運動をする機会や環境に恵まれず、子育てが最優先になっているからだと思われる。30歳代からも予防が必要だが、予防には若い世代が入っていない。30・40歳代は抜け落ちた世代だと感じている。</p>	<p>本計画では、子どもから高齢者まですべての世代を対象としていますが、生活習慣の課題は働く世代がターゲットになっています。働く世代の健康をどう改善していくかも大きなテーマであり、施策にも盛り込んでまいります。</p>
12	<p>昨年4月から小・中・高校生の運動器検診が始まった。子ども版メタボリックシンドロームを懸念しての事業だと思われる。市全体で取り組むならば、小・中・高校生のことも考えてほしい。</p> <p>また、健康には食事、運動と合わせて睡眠環境も大切である。暮らしの中の様々な部門から健康に取り組むと、今までにないモデル事業のような取組になるのではないかと。</p>	<p>草津市は、小学生は全国平均と比べて体力が低く、中学生は高くなっており、小学生には授業にダンスを取り入れ、中学生には部活をする上での相談体制を構築しています。</p> <p>また、健康には運動・食事と合わせて休養や睡眠も大切な要素との指摘もあり、今後大学の睡眠の専門家との連携も必要に応じて検討していきたいと考えています。さらに、様々な人と交流することも健幸に資する重要な取組と考え、交流の場を作ることも計画に含めています。</p>
13	<p>第三次就労支援計画では、コミュニティビジネスを経済活動の一つとして活性化すると謳っているにも関わらず、しごとの健幸づくりに記載されていない。</p>	<p>しごとの健幸づくり基本施策2（1）「産学公民連携とその仕組みづくり」の「その他主な事業・取組」に再掲いたします。</p>

※タウンミーティング等の意見には、草津市議会における意見も含まれます。

※タウンミーティングの開催について、ひとの健幸づくり基本施策2（2）「ライフステージに応じた健康づくり」のコラムおよび資料編（1）「策定の経過」に追記いたしました。